

日実動学-外検発 第R4-28号-報

# 検証実施証明書

鳥取大学  
学長 中島 廣光 殿

貴機関は 公益社団法人日本実験動物学会  
外部検証委員会による「動物実験に関する  
外部検証事業」による自己点検・評価を行い  
その結果に対する検証を本委員会が実施した  
ことを証します

2023年3月10日

公益社団法人日本実験動物学会  
理事長 三好 一郎



No.2022-28

Japanese Association for Laboratory Animal Sciences



## CERTIFICATE

Prof. Hiromitsu Nakajima  
President  
Tottori University

Dear President

In every Japanese institution under the jurisdiction of Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology, MEXT, self-inspections and evaluations for the conduct of animal experiment and related activities must be verified by a third party, independent of the research institution concerned.

Japanese Association for Laboratory Animal Science (JALAS) certify that Tottori University received "Assessment and Verification Program for Care and Use of Laboratory Animals in 2022".

Sincerely yours

10 March, 2023

A handwritten signature in black ink, appearing to read "Ichiro Miyoshi".

Ichiro Miyoshi DVM PhD  
DJCLAM  
President  
JALAS

A handwritten signature in black ink, appearing to read "Chihiro Koshimoto".

Chihiro Koshimoto PhD  
Chairman  
Assesment and Verification  
Committee, JALAS

動物実験に関する検証結果報告書

鳥取大学

動物実験に関する外部検証事業

(公益社団法人日本実験動物学会)

2023年3月

2023年3月10日

鳥取大学  
学長 中島廣光 殿

貴機関における動物実験の実施体制に関して、提出された自己点検・評価結果報告書に対する検証結果を通知します。

公益社団法人日本実験動物学  
理事長 三好



対象機関：国立大学法人鳥取大学  
申請年月日：2022年7月26日  
訪問調査年月日：2022年12月12-13日  
調査員：樺木勝巳、高橋英機、三浦竜一

#### 検証の総評

鳥取大学は、4学部、5大学院研究科をもつ総合大学であり、動物実験は主に鳥取キャンパスにある農学部共同獣医学科及び大学院共同獣医学研究科、米子キャンパスにある医学部及び大学院医学系研究科で実施されている。鳥取大学動物実験委員会（以下「動物実験委員会」という。）は、「鳥取大学動物実験規則（以下「動物実験規則」という。）」に基づき設置されており、学長の責務を明記したうえで、動物実験の計画及び実施結果、施設等の設置、実験動物の飼養保管状況、並びに教育訓練等について審議、調査し、学長に報告又は助言することと規定されている。両キャンパスは約80 km離れて立地しているが、動物実験実施体制は一元化され、文部科学省の「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針（以下「基本指針」という。）」及び環境省の「実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準（以下「飼養保管基準」という。）」に対応しており、適正に運用されている。動物実験委員会と鳥取大学遺伝子組換え実験安全委員会（以下「遺伝子組換え委員会」という。）は、鳥取大学研究推進機構の傘下に統合され、鳥取大学特有の事情を考慮しつつ、実効性の高い動物実験の実施体制を構築している。

飼養保管施設等は、改修事業等を実施し、総合的に良好な状態に改善されており、キャンパス間及び施設間の整合性の向上が認められる。実験動物の飼養保管の体制

も全学的に統一された体制への移行が順調に行われていることは、極めて高く評価できる。なお、現状において飼養保管施設等の維持管理は機能しているが、持続的な維持管理に支障を生じさせるおそれとなる点も見受けられるので、引き続き施設等の維持管理に向けて改善に取り組まれることを期待する。

## 検証結果

### I. 規程及び体制等の整備状況

#### 1. 機関内規程

1) 機関による自己点検・評価結果 ■ 基本指針に適合する機関内規程を定めている。 □ 機関内規程を定めているが、一部に改善すべき点がある。 □ 機関内規程を定めていない。
2) 自己点検・評価の妥当性 動物実験規則をはじめ、「鳥取大学動物実験委員会鳥取地区専門委員会規程」「鳥取大学動物実験委員会米子地区専門委員会規則」が定められ、基本指針に則した学長の責務と動物実験委員会の役割が明記されている。鳥取キャンパス及び米子キャンパスをそれぞれ管轄する地区専門委員会を動物実験委員会内に組織し、動物実験委員会の役割の円滑な遂行を図っている。従って、機関内規程について、自己点検・評価の結果は妥当である。
3) 検証の結果 ■ 基本指針に適合する機関内規程が定められている。 □ 機関内規程は定められているが、一部に改善すべき点がある。 □ 機関内規程が定められていない。
4) 改善に向けた意見 特になし。

#### 2. 動物実験委員会

1) 機関による自己点検・評価結果 ■ 基本指針に適合する動物実験委員会を設置している。 □ 動物実験委員会を設置しているが、一部に改善すべき点がある。 □ 動物実験委員会を設置していない。
2) 自己点検・評価の妥当性 動物実験委員会は、基本指針及び動物実験規則に適合した人員が配置されている。これに加え鳥取地区専門委員会並びに米子地区専門委員会が組織されている。従って、動物実験委員会について、自己点検・評価の結果は妥当である。
3) 検証の結果 ■ 基本指針に適合する動物実験委員会が置かれている。 □ 動物実験委員会は設置されているが、一部に改善すべき点がある。 □ 動物実験委員会は設置されていない。
4) 改善に向けた意見 特になし。

### 3. 動物実験の実施体制

#### 1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針に適合し、動物実験の実施体制を定めている。
- 動物実験の実施体制を定めているが、一部に改善すべき点がある。
- 動物実験の実施体制を定めていない。

#### 2) 自己点検・評価の妥当性

様式として「動物実験計画申請書」「鳥取大学動物実験報告書」「鳥取大学動物実験計画書変更申請書」「飼養保管施設設置承認申請書」「実験室設置承認申請書」「施設等(飼養保管施設・動物実験室)廃止届」「動物実験(終了・中止)報告書」が定められている。動物実験計画書等の管理は、オンライン化された電子申請システムにより審査過程での指摘内容や動物実験計画書内容の変更履歴についても追跡可能となっている。従って、動物実験の実施体制について、自己点検・評価の結果は妥当である。

#### 3) 検証の結果

- 基本指針に適合し、動物実験の実施体制が定められている。
- 動物実験の実施体制が定められているが、一部に改善すべき点がある。
- 動物実験の実施体制が定められていない。

#### 4) 改善に向けた意見

特になし。

### 4. 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制

#### 1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針に適合し、安全管理に注意を要する動物実験の実施体制を定めている。
- 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制を定めているが、一部に改善すべき点がある。
- 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制を定めていない。
- 該当する動物実験を行っていないので、実施体制を定めていない。

#### 2) 自己点検・評価の妥当性

「鳥取大学遺伝子組換え実験安全管理規程」「鳥取大学遺伝子組換え実験専門委員会細則」「鳥取大学感染症予防安全管理規程」「鳥取大学家畜伝染病等予防安全管理規程」「鳥取大学放射線安全委員会規則」「鳥取大学化学物質管理規程」等の安全管理に注意を要する動物実験の実施に関連する規程や規則等が定められ、その実施体制が整備されている。従って、安全管理に注意を要する動物実験の実施体制について、自己点検・評価の結果は妥当である。

#### 3) 検証の結果

- 該当する動物実験の実施体制が定められている。
- 該当する動物実験の実施体制が定められているが、一部に改善すべき点がある。
- 該当する動物実験の実施体制が定められていない。
- 該当する動物実験は、行われていない。

4) 改善に向けた意見

特になし。

5. 実験動物の飼養保管の体制

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正な飼養保管の体制である。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検・評価の妥当性

学内 11 か所に実験動物飼養保管施設を設置し、すべての施設に実験動物管理者が選任されており、基本的な管理体制は整備されている。従って、実験動物の飼養保管の体制について、自己点検・評価の結果は妥当である。

3) 検証の結果

- 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正な飼養保管の体制である。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

4) 改善に向けた意見

統合的な飼養保管施設マニュアルに基づき各飼養保管施設が運営されているが、緊急時の連絡先の更新も含めそれぞれの施設の事情に適合させたマニュアルに刷新することが望ましい。

6. その他（動物実験の実施体制において、特記すべき取り組み及びその点検・評価結果）

2012 年度に実施された動物実験に関する相互検証プログラム（国立大学法人動物実験施設協議会・公立大学実験動物施設協議会）において指摘された機関内規程及び関連する学内規則の改正、動物実験計画書等の審査過程の記録、安全管理を要する動物実験に関連する委員会間の連携や同マニュアルの整備、飼養保管施設等の計画的な改修や飼養保管体制の整備、並びに情報公開の方法等に関して、すべて適切に対応されていた。



## II. 実施状況

### 1. 動物実験委員会の活動状況

<p>1) 機関による自己点検・評価結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合し、適正に機能している。</li> <li><input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。</li> <li><input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。</li> </ul>
<p>2) 自己点検・評価の妥当性</p> <p>動物実験委員会の審査は、研究推進機構の専任教員による一次審査に続き、同一の研究分野に属する鳥取地区専門委員会あるいは米子地区専門委員会での二次審査が行われた後に、動物実験委員会で審査する三段階審査で行われ、審査過程での指摘内容や動物実験計画書内容の変更履歴が保管されている。動物実験計画の審査だけでなく、実験結果に対する助言、自己点検・評価の実施、教育訓練の実施等、基本指針に則した動物実験委員会の活動の円滑化にも寄与し、議事録等も保存されている。従って、動物実験委員会の活動状況について、自己点検・評価の結果は妥当である。</p>
<p>3) 検証の結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合し、適正に機能している。</li> <li><input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。</li> <li><input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。</li> </ul>
<p>4) 改善に向けた意見</p> <p>特になし。</p>

### 2. 動物実験の実施状況

<p>1) 機関による自己点検・評価結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合し、適正に動物実験を実施している。</li> <li><input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。</li> <li><input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。</li> </ul>
<p>2) 自己点検・評価の妥当性</p> <p>動物実験計画は審査及び承認を経て3年間有効で、毎年度おおよそ200件ほどの動物実験計画が承認されている（2021年度は219件承認）。動物実験委員会の答申を受けて学長の承認を受けており、動物実験計画の審査が的確に行われていると判断できた。また、学生実習の動物実験計画書の申請及び承認を必須としていた。従って、動物実験の実施状況について、自己点検・評価の結果は妥当である。</p>
<p>3) 検証の結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合し、適正に動物実験が実施されている。</li> <li><input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。</li> <li><input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。</li> </ul>

4) 改善に向けた意見

野生動物の一時的な捕獲を伴う動物実験は、自治体等の許可を得て適切な方法で行われているが、動物福祉的観点から審議するために動物捕獲法等の把握を検討されたい。

3. 安全管理に注意を要する動物実験の実施状況

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針に適合し、当該実験を適正に実施している。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。
- 該当する動物実験を行っていない。

2) 自己点検・評価の妥当性

安全管理を要する動物実験は、法令及び関連する学内規則に則して安全に実施されている。また、法律で定められている機器等の点検記録及び遺伝子組換え動物実験や病原体使用動物実験のリストも存在する。安全管理上の問題は生じていない。動物実験委員会と遺伝子組換え実験委員会は研究推進機構傘下に統合され、あわせて委員の兼任や専門委員会の設置等により円滑な連携が図られている。従って、安全管理に注意を要する動物実験の実施状況について、自己点検・評価の結果は妥当である。

3) 検証の結果

- 該当する動物実験が適正に実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。
- 該当する動物実験は行われていない。

4) 改善に向けた意見

特になし。

4. 実験動物の飼養保管状況

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に実施している。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検・評価の妥当性

各飼養保管施設には、飼養保管施設利用マニュアルが整備され、実験動物の検疫に加えて、両キャンパスの中核施設が連携して微生物学的モニタリングも適正に行われている。中型及び大型動物（イヌ・ネコ・ウシ等）では定期健康検査や治療等の個体記録が保存されている。従って、実験動物の飼養保管状況について、自己点検・評価の結果は妥当である。

3) 検証の結果

- 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。

<input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
<p>4) 改善に向けた意見</p> <p>米子キャンパスの中核施設である先進医療研究センター動物実験施設では、専任職員等を配置し持続的な飼養保管状況が維持されている。一方で、鳥取キャンパスの中核施設であるサステナブル・サイエンス研究センター動物実験施設には、専任職員等が配置されていないため、日常的な施設等の利用に関しての指導や助言する者等が不在である。よって、中核的な共同利用施設では安定した運営並びに具体的な作業の指導や助言ができるよう専任職員等を配置することが望ましい。</p>

5. 施設等の維持管理の状況

<p>1) 機関による自己点検・評価結果</p> <input type="checkbox"/> 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に維持管理している。 <input checked="" type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
<p>2) 自己点検・評価の妥当性</p> <p>自己点検・評価では、老朽化していた鳥取キャンパスの中核施設であるサステナブル・サイエンス研究センター動物実験施設の空調改修のみ行われ、室配置の見直し等の機能改善改修が行われていないことから、「概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。」としているが、現地視察時までには内装改修が終了し、整理整頓がなされ衛生的な環境にあることが認められ、米子キャンパスの中核施設とともに、適切に維持管理がなされている。従って、施設等の維持管理の状況について「概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。」との自己点検・評価の結果であるが、「基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。」とする。</p>
<p>3) 検証の結果</p> <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
<p>4) 改善に向けた意見</p> <p>空調改修等を行ったサステナブル・サイエンス研究センター動物実験施設が適切に維持管理できるように、温湿度等を点検し記録する仕組みを導入することが望ましい。</p>

6. 教育訓練の実施状況

<p>1) 機関による自己点検・評価結果</p> <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に実施している。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
---

<p>2) 自己点検・評価の妥当性</p> <p>鳥取キャンパス及び米子キャンパスにおいて教育訓練が実施され、2021 年度の教育訓練受講者は 281 名であった。教育訓練の実施記録や受講者の記録等が整理されており、基本指針や飼養保管基準に則した教育訓練が実施されている。従って、教育訓練の実施状況について、自己点検・評価の結果は妥当である。</p>
<p>3) 検証の結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/> 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。</li> <li><input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。</li> <li><input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。</li> </ul>
<p>4) 改善に向けた意見</p> <p>特になし。</p>

#### 7. 自己点検・評価、情報公開

<p>1) 機関による自己点検・評価結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/> 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に実施している。</li> <li><input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。</li> <li><input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。</li> </ul>
<p>2) 自己点検・評価の妥当性</p> <p>回収率が 100%に達している「動物実験の自己点検票」「実験動物飼養保管状況の自己点検票」等の資料をもとに、動物実験委員会で自己点検・評価を毎年実施している。また、大学ホームページで、情報公開が適正に実施されている。従って、自己点検・評価、情報公開について、自己点検・評価の結果は妥当である。</p>
<p>3) 検証の結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/> 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。</li> <li><input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。</li> <li><input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。</li> </ul>
<p>4) 改善に向けた意見</p> <p>特になし。</p>

#### 8. その他

(動物実験の実施状況において、機関特有の点検・評価事項及びその結果)

<p>先進的な取組として、米子キャンパスにある先進医療研究センター動物実験施設では実験動物管理者、実験動物飼養者、施設等の現場管理を行う職員、及び動物実験実施者がスマートフォンアプリケーションを用いた連絡網を構築し、情報を共有化、機能的に運用していることがあげられる。</p>
--